

心 情 の 豊 か な 幼 児 の 育 成

— 地域の民話やわらべ歌の教材化を通して —

糸満市立高嶺幼稚園教頭 屋比久 トシ子

目 次

I	テーマ設定の理由	11
II	研究仮説	11
III	研究の全体構想図	12
IV	研究内容	13
1	心情の豊かな幼児とは	13
2	沖縄の民話について	13
(1)	民話の教育的意義	13
(2)	民話の分類	13
3	沖縄のわらべ歌について	14
(1)	わらべ歌の教育的意義	14
(2)	沖縄のわらべ歌の分類	14
4	沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画の作成	14
5	沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画表	15
6	沖縄の民話やわらべ歌のアンケート調査結果	16
V	実践事例	17
1	実践例 1	17
2	実践例 2	17
3	検証保育	18
4	幼児の変容について	19
5	考 察	20
VI	研究の成果と今後の課題	20
1	成 果	20
2	今後の課題	20

心 情 の 豊 か な 幼 児 の 育 成

— 地域の民話やわらべ歌の教材化を通して —

糸満市立高嶺幼稚園教頭 屋比久 トシ子

I テーマ設定の理由

近年、生活様式の変化や価値観の多様化など幼児を取り巻く環境がめまぐるしく変化している。そのような環境の変化と共に人々の心の豊かさが求められるようになり、これからの教育のあり方として「たくましく豊かに生きる力」が重視されている。

幼稚園教育要領には「幼稚園においては、日常生活の中で出会う様々な事物や現象、文化の中に潜んでいる美しさ、不思議さ、優しさなどに気づき、そうした感動を他の幼児や教師と共有し表現し合うことを通して豊かな感性を育てるようにすることが大切である。」と述べられている。

そのような状況の中で、本園の幼児の日常生活における生活の様子を把握するために、実態調査を実施した。その結果、核家族が78%を占め、学童保育に通っている幼児が30%で、塾に通っている幼児が30%となっている。また、幼稚園から帰宅すると自分の家で遊ぶ幼児が47%で、ほとんどが兄弟や姉妹と遊んでいる。そのため地域の友達と遊んだり、お年寄りに接する機会や、地域の豊かな伝統文化に触れる機会が少なくなってきたことが伺われる。

私の幼稚園では幼児の心情の豊かさを培うため、次のような保育実践を行ってきた。祖父母を幼稚園にお招きし、幼児と一緒にわらべ歌をうたったり、昔物語を聞かせてもらったり、郷土玩具（ソテツの虫かご、お手玉）を作ってもらったりした。このような活動を通して幼児は祖父母との触れ合いを深め、お年寄りに対する優しさや思いやりの気持ちを育てると共に、祖父母の心の温かさ、生活の知恵、地域の良さなどに気づかせることをねらいとしているものである。

その結果、次のような課題があることに気がついた。

- ① 幼稚園や家庭で方言が生活に溶け込んでいないので、お年寄りの方言での話が幼児によく伝わらない。
- ② 沖縄の民話やわらべ歌に触れる機会が少ないため、それらを知らない。
- ③ 地域の人々と触れ合う機会が少ないため、地域の良さがあまりわからない。

このことは、幼稚園生活や家庭生活において、沖縄の民話やわらべ歌を聞かせることや、郷土の良さに気づかせることをあまり取り入れていないことに原因があると考えられる。実際に、民話やわらべ歌の利用状況についての実態を把握するために、島尻の公立幼稚園教諭と本園の保護者を対象にアンケートを実施した。その結果、「民話を教材によく利用する教師」が3%、「時々利用する」55%、「あまり利用しない」41%となっている。また、保護者の方は「民話の読み聞かせや語り聞かせをやっている」5%、「やっていない」95%となっている。民話を利用しない理由としては「自分が民話を知らないから」ということが教師31%、保護者73%で高い数値をあらわしている。アンケート調査結果から、現代の幼児にとって民話やわらべ歌に触れる機会がだんだん少なくなってきたことがわかる。

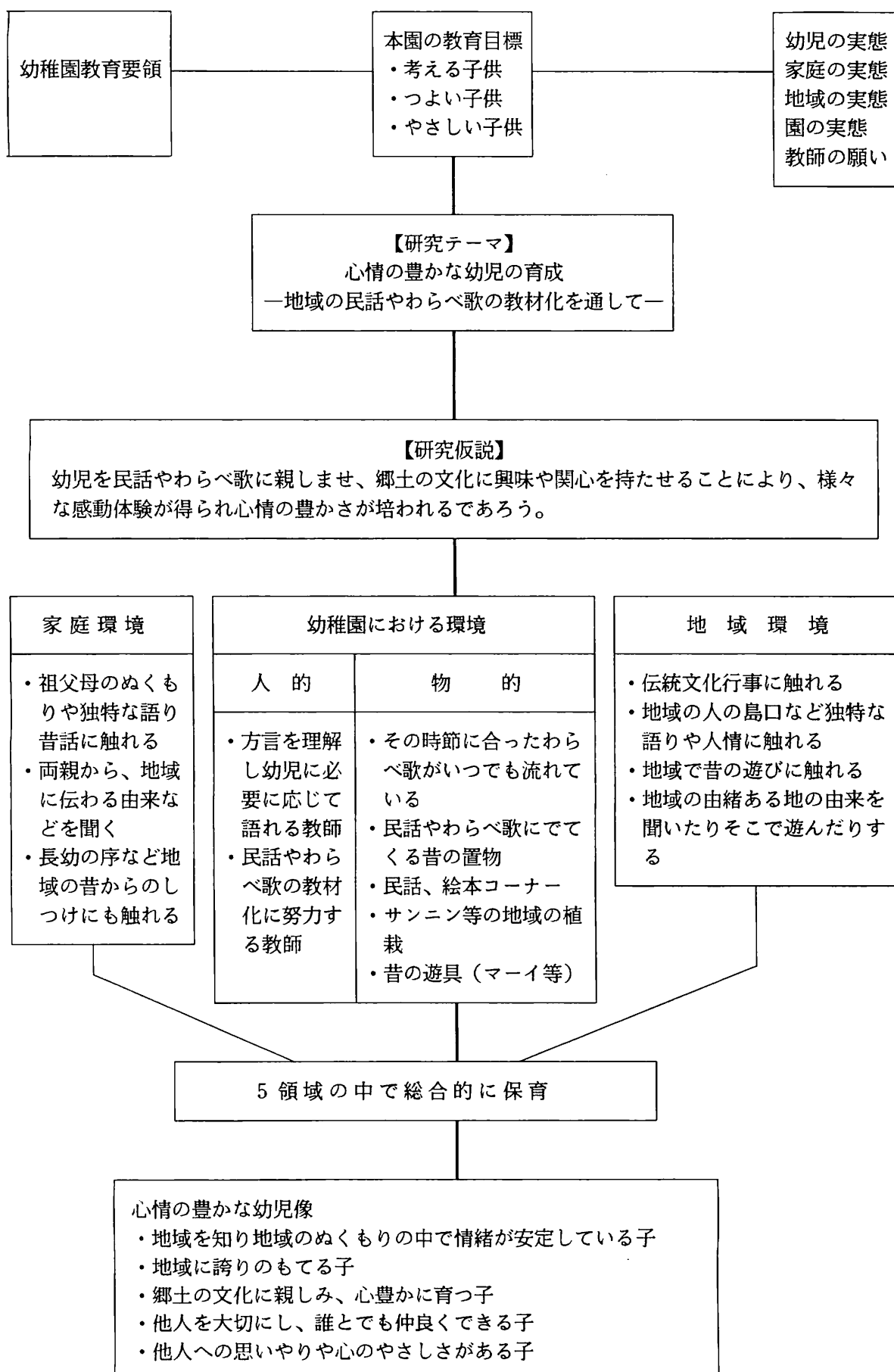
民話やわらべ歌には、昔の人々の生きてきた知恵や心の豊かさがあり、人々の求める願いや理想がこめられている。幼児期にそのような民話やわらべ歌に触れることは、幼児のより良き成長発達にとって極めて重要であると考えられる。

そこで、これまでの反省をふまえ、地域にある民話やわらべ歌を保育の中に取り入れ、幼児に親しませることにより、郷土の文化についての興味や関心を持たせ、心情の豊かな幼児の育成へとつながるべく、本テーマを設定した。

II 研究仮説

幼児を民話やわらべ歌に親しませ、郷土の文化に興味や関心を持たせることにより、様々な感動体験が得られ心情の豊かさが培われるであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究内容

1 心情の豊かな幼児とは

心情の豊かな幼児とは、人に対する思いやりをもち、友達へ同情したり、共感したり、相手の立場を理解できるような温かい心と、人の痛みを知る優しい心をもった幼児と捉える。

幼稚園生活において心情の豊かな幼児を育てるためには、幼児に適切な環境（人的環境、物的環境）を与えて、様々な感情体験を経験させることが必要と考える。幼児は、教師との信頼関係に支えられ、遊びを通して多くの友達と交わり、楽しさや喜び、葛藤、挫折などを味わいながら次第に自分の気持ちや相手の気持ちに気づくようになり、してはならないことやしなければならないことを判断する力が育ってくる。また自然の美しさや身近な動植物に親しみ、生命の大切さに気づいたり、いたわったりする気持ちをもったりすることなども、豊かな心情を育むために重要なことである。

2 沖縄の民話について

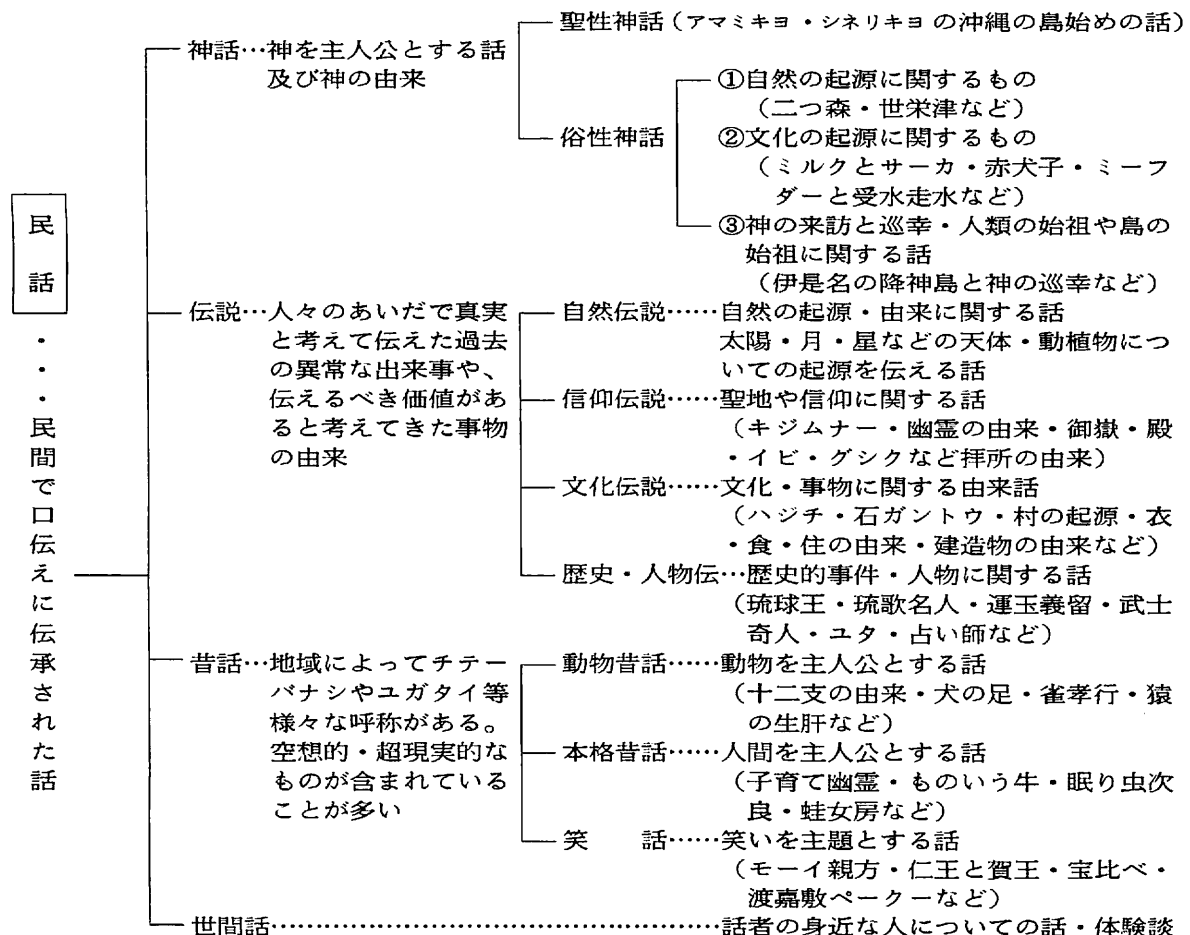
(1) 民話の教育的意義

祖先から子孫へと語り継がれてきたものが口承文芸であり、人々の願望や思考・生活・知恵などを伝え、心を育てる役割を果たし続け、人類共通の心を生み出した母胎である。人間の共通の喜び、悲しみ、苦しみ、怒りなどさまざまな情念が複雑な屈折を経て、民話として象徴され、人から人へと語り伝えられたものである。

民話が幼児の心を育てる働きは、民話によって幼児の心にもたらされる文学的経験にあるといわれている。民話に登場する主人公の行為に、ときには同化し、ときには共感し、ときには反発したりしながら、それを心の経験とする。民話によって生きる意欲には欠かせない希望と、成長には欠かせない冒険そして、心の安定に必要な安らぎを自分の経験とすることで、心を豊かに成長させていくのである。

(2) 民話の分類

民話は研究者によってさまざまに分類されている。ここでは沖縄国際大学の遠藤庄治が行っている分類に基づいて表にした。



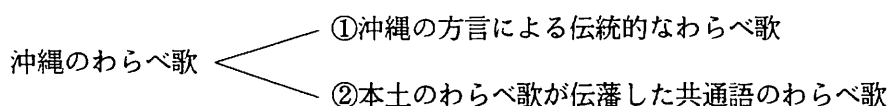
3 沖縄のわらべ歌について

(1) わらべ歌の教育的意義

わらべ歌は本来、ゆうぎを伴っているもので、幼児が生活の中で、自分たちが遊ぶために作った歌である。また、幼児が自然界に親しんだり、動物や小鳥たちと遊んだり、まりつきをしたり、「だるまさんがころんだ」のように集団的な遊びの時、自然の姿で登場するものである。幼児が手、指、腕足を動かしながら歌うことは、知能の発育に大きく影響する。さらに幼児同士が、わらべ歌をうたいながら遊ぶことは幼児にとって大きな喜びである。この喜びの中に温かい触れ合いが生まれ、友達関係が深まっていく。このようにわらべ歌には豊かな人間性を育てることを目指した深い教育的意義がある。

(2) 沖縄のわらべ歌の分類

沖縄のわらべ歌について、高江洲義寛は次のように分類している。



わらべ歌の分類については、これまでさまざまな方法でおこなわれてきているが、ここでは小泉文夫編『わらべ歌の研究』の分類に基づいて、実際に歌い継がれている沖縄の方言による伝統的なわらべ歌を整理したものが次の表である。

沖縄の伝統的なわらべ歌	遊	・となえ歌 (数え歌、はやし歌、しりとり等)	いっとうがよー、ていたーみーゆー、大和おくさん 山原ーが入っちょんどー、いったおとうや等
		・まりつき	正月マーイけーらけーら、ていちゃてどうくん等
	歌	・からだ遊び (かくれんぼ等)	手、指、顔、目、ひざ、足などの遊び 「手遊び」「指遊び」「赤田首里殿内」 「いっちくたっちく」「ふーゆべまー」等
		・動植物の歌	牛モーモー、こーじゃー馬小、いったーあんまー まーかいが、じんじん等
	自然をうたった歌	・天体気象の歌	あーみーどーい、大雨やていん、月ぬ美しゃ あっとーめーたり、とーとーめーさい 天ぬ群り星や等
		・行事の歌	いい正月や、三月三日等
	わ周ら辺の歌	・子守歌	耳切り坊主、ちんぬくじゅーしー
		・教訓歌	ていんさぐぬ花

4 沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画の作成

地域にある民話やわらべ歌を保育の中に取り入れ、効果的に指導するためには、「いつ」、「どこで」「何を」、「どのように展開していくのか」具体的な見通しをもつことが大切である。そのために、地域の実態に即したその地域ならではの自然、文化などの素晴らしさを幼稚園生活の中に教材として取り入れ、幼児の発達段階に応じて、その時期に適した指導をしていくよう年間指導計画を作成した。

作成にあたっては次のことに留意した。

- (1) 地域の実態を把握し、地域性を取り入れるようにする。
- (2) 地域の人材を活用し、地域の教育力を生かすようにする。
- (3) 幼児の発達に応じた教材の工夫をする。

5 沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画表

	地 域 行 事	民 話	わ ら べ 歌	ね ら い	家庭・地域との連携	教 師 の 配 慮	資 料 名
4 月	・シーミー（清明祭） ・浜うり（旧3月3日）	・月の子アカナー ・浜うりの由来 「アカマターの話」	・アカナー	・女の子の成長を祝う	・浜下りを家族でやる ・由来や昔の浜下りのことを聞く	・幼児にわかりやすい内容に話す	・絵本『月の子アカナー』 ・沖縄の民話集
5 月	・母の日 ・アブシバレー（悪虫払い）	・母の木 ・あめ買いユレー	・ちんぬくじゅーしー ・イッターアンマー まーかいが	・母の愛を知り感謝する	・母が幼いとき親から聞いた民話やわらべ歌を各々聞かせてもらう	・お母さんのいない幼児への接し方に気を配る	・絵本『母の木』 ・沖縄の民話集
6 月	・慰霊の日 ・ハーレー（旧5月4日）	・戦争体験の話 ・ハーレーの話	・アーミードーイ ・コージャーマ小	・強さ・たくましさ・やさしさ	・遠足などで平和記念公園に行き戦争のころの人々について聞く	・園長先生が実際に戦争を体験したことについて話す	・絵本『みちこ』 ・絵本『ねずみのハーレー』
7 月	・カシチー（新米収穫祝）	・嘉手志川伝説	・じんじん	・公共の施設を大切にする	・嘉手志川で遊びを楽しむ	・嘉手志川へ行って話す	・糸満市文化課資料
9 月	・おじいちゃんやおばあちゃんと遊ぼう ・真栄里綱引き（旧8月16日） ・旧十五夜	・綱引きの由来 ・かえるの綱引き	・ていんさぐぬ花	・綱引きの話を聞き地域行事に関心を持つ	・真栄里の綱引きについて園で地域の方に語ってもらう	・話（方言）がわからない時には解説してわかりやすく話す	・糸満市文化課資料 ・絵本『かえるの綱引き』
10 月	・旧カジマヤー祝	・カジマヤーの由来 ・へこき三良 ・くらやみのキジムナー	・花ぬカジマヤー ・チョンチョンキジムナー	・民話のおもしろさを感じ親しみを持つ	・地域のカジマヤーの年寄りの長寿を喜び、敬いの心を持たせる	・自分達で作った風車を持って踊る	・糸満市文化課資料 ・絵本『へこき三良』 『暗闇のキジムナー』
11 月	・文化祭	・耳切り坊主 ・ニワトリが化けた	・大村御殿 ・赤田首里殿内	・郷土の文化に興味を持つ	・いろいろな子守歌を父母に教えてもらう	・写真や新聞記事を見やすい場所に貼る	・文化祭の写真や新聞記事 ・沖縄の民話集
12 月	・冬至（トゥンジー）	・国吉城の伝説	・いっちくたっちく ・徳利小 ・ちんぬくじゅーしー	・季節によって生活の変化を感じる	・国吉城の伝説についてその地へ出向き古老に語ってもらう	・糸満市文化課資料を調べて知識を持っておく	・糸満市文化課資料
1 月	・ムーチー ・正月	・鬼ムーチー ・十二支の物語	・まりつきうた ・いい正月やー	・新年を祝い干支に関心を持つ ・鬼ムーチーの伝統行事を知る	・家でムーチーをつくり鬼除けをつくり年の数下げの実践をする	・手作りの紙芝居を使って興味を高める	・紙芝居『鬼ムーチー』
2 月	・初拝み	・南山城跡の話 ・白銀堂の由来	・赤田首里殿内	・地域の民話に興味・関心を持つ	・地域の方に語り聞かせをしてもらう	・幼児にわかりにくいところは説明を加える	・糸満市文化課資料
3 月	・ウマチー	・大里の「ワタキナの森」の伝説 ・モーイ親方	・イービン小	・民話の語り聞かせに興味を持ち心情を豊かにする	・地域の方に語り聞かせをしてもらう	・幼児にわかりやすいようにやってもらうように話しておく	・糸満市文化課資料 ・沖縄の民話集

6 幼稚園における沖縄の民話やわらべ歌に関するアンケート調査結果

対象：島尻地区公立幼稚園教諭

※アンケートの目的：幼稚園において沖縄の民話やわらべ歌の利用状況を調査・把握・分析し、今後の保育に生かす。

※方法：郵送で配布

※実施：平成8年10月22日～11月8日 回収率83%（139名中116名提出）
教諭の年齢：20代…25名 30代…17名 40代…69名 50代…5名

(1) 沖縄の民話について（教師）

質問1	あなたは子供の頃、沖縄の民話を聞いたことがありますか。	答	ア.よく聞いた 17 % イ.少し聞いた 70 % ウ.聞かなかった 13 %
質問2	沖縄の民話を誰から聞きましたか。	答	ア.祖父 5 % イ.祖母 39 % ウ.父 20 % エ.母 40 % オ.おじおば 5 % カ.近所の方 7 % キ.その他（先生・友達・テレビ・本）18 % ※複数回答
質問3	どのような民話を聞きましたか。	答	キジムナー43人、七色ムーティー25人、ムーティーの話22人、耳切り坊主16人、モーイ親方10人、運玉義留9人、白銀堂の出来9人 ※複数回答
質問4	幼稚園で民話を教材として利用していますか。	答	ア.よく利用する 3 % イ.時々利用する 55 % ウ.あまり利用しない 41 % エ.無回答 1 %
質問5 ※質問4・ア、イの方	沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをする時、子供の反応はどうですか。	答	ア.興味を持って喜んで聞く 36 % イ.普通 24 % ウ.あまり反応がない 4 %
質問6 ※質問4・ウの方	あまり利用しないのはどうしてですか。	答	ア.自分がよく知らないから 31 % イ.子供が興味を持たないから 1 % ウ.その他 2 %

（考察）

- ・子供の頃に民話をよく聞いた教師は、園児への教材として、民話をよく利用していることがわかる。
- ・話し手が、祖母又は母と答えたのが多い。従って民話から母乳のような温かいぬくもりを感じる。
- ・地域によって民話の違い、それぞれの地域性が見られた。
- ・民話を教材として利用していない教師は、自分自身がそれをよく知らないということが理由となっている。

(2) 沖縄のわらべ歌について（教師）

質問1	あなたは、沖縄のわらべ歌を知っていますか。	答	ア.知っている 89 % イ.知らない 7 % ウ.回答なし 4 %
質問2 ※質問1・アの方	どのようなわらべ歌を知っていますか。	答	・じんじん 63名 ・こーじや馬小 13名 ・ていんさぐぬ花 41名 ・ちんぬくじょーしー 9名 ・いったーあんまー 36名 ・小緑登見城 7名 ・まーかいがー 2名 ・赤田首里殿内 35名 ・大村御殿 2名 ・いっくちくたっち 35名 ・安里原エシク 1名 ・花ぬ風車 24名 ・アーミードイ 1名 ※複数回答
質問3	あなたは幼稚園で沖縄のわらべ歌を教材として利用していますか。	答	ア.よく利用する 9 % イ.時々利用する 62 % ウ.あまり利用しない 29 %
質問4 ※質問3・アイの方	沖縄のわらべ歌を教材として利用する時、子供の反応はどうですか。	答	ア.興味を持っている 44 % イ.普通 29 % ウ.あまり反応なし 7 %
質問5 ※質問3・ウの方	あまり利用しないのはどうしてですか。	答	ア.自分がよく知らないから 73 % イ.子供が興味を持たないから 3 % ウ.その他（機会をつくらないから） 15 % エ.無回答 9 %

（考察）

わらべ歌は、ほとんどの教師が知っており、時々利用しているのが多い。子供にとっても、興味を持っていることがアンケートの結果に表れている。
あまり利用していない理由として、自分がよく知らないからというのが大方である。このようなことから幼稚園において、もっと教師がわらべ歌に親しむ環境づくりをすることが大切であると思われる。

沖縄の民話やわらべ歌についての保護者へのアンケート調査結果

対象：高嶺幼稚園全保護者

※アンケートの目的：家庭での民話やわらべ歌に対する利用状況を調査・把握・分析し、今後の保育に生かす。

※方法：園児を通して配布し、保護者が記入する。

※実施：平成8年10月22日～25日 回収率：93%（60名中56名提出）
保護者の年齢：20代…8名 30代…39名 40代…9名

(1) 沖縄の民話について

質問1	あなたは子供の頃、沖縄の民話を聞いたことがありますか。	答	ア.よく聞いた 18 % イ.少し聞いた 56 % ウ.聞かなかった 26 %
質問2	沖縄の民話を誰から聞きましたか。	答	ア.祖父 6 % イ.祖母 30 % ウ.父 12 % エ.母 33 % オ.兄 1 % カ.姉 1 % キ.おじ 1 % ク.おば 3 % ケ.近所の方 4 % コ.その他 11 % ※複数回答
質問3	どのような民話を聞きましたか。	答	別紙
質問4	あなたは最近沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをやっていますか。	答	ア.やっている 5 % イ.やっていない 95 %
質問5 ※質問4・ア、イの方	どのような沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをしていますか。	答	別紙
質問6 ※質問4・ウの方	沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをやるのはどうしてですか。	答	ア.自分がよく知らないから 72 % イ.忙しいから 11 % ウ.子供が興味を持たないから 4 % エ.その他 13 %
質問7	家族で一番よく沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをするのはどなたですか。	答	ア.祖父 9 % イ.祖母 32 % ウ.父 6 % エ.母 30 % オ.兄 2 % カ.姉 2 % キ.おじ 1 % ク.無回答 1 % ケ.その他 17 %

質問5内訳 どのような沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせを実践していますか。

質問3内訳 どのような民話を聞きましたか。

民話名	人数	民話名	人数
キジムナー	25	ウニムナー物語	7
真玉橋うれい	5	高手志川の伝説	1
白銀堂物語	4	七色ムーティー	2
吉屋チル	2	カエルトカラスの知恵くらべ	1
クシャミと赤ちゃん	1	北谷モーシー	1
運玉義留	1	武上松村	1
名護親方	1	赤マターの伝説	1
護佐丸	1	チョウ阿波根親	1
首里城にまつわる話	1	東里のヤンバル船を引く話	1
12ひとえ	1	トマイアーカー	1
ユシアチル	1	丘の一本松	1
昔の力持ち	1	耳切りボーズ	1
ウズノのゆかたい	1	通り池（下地島）熊子話	1

- ・沖縄の民話絵本集を読んであげたことがある
- ・沖縄の民話というより童話の話が多い
- ・行事等の由来（例えば、つな引きやムーティー、旧の3月3日）
- ・キジムナー（2名）
- ・とんとんみーとキジムナー
- ・ムーティーの由来
- ・ガーナムイの由来
- ・奥武山のみみず
- ・ネズミとヤドカリ

V 実践事例

1 実践 1「わらべ歌をうたおう」

12月3日(火) 晴 10時～11時

ねらい フミおばあちゃんと一緒に、わらべ歌をうたい心地良さを味わう

幼 児 の 活 動	教 師 の 援 助
・話を聞いて出かける用意をする ・おばあちゃんの家で、わらべうた「ちんぬくじゅーしー」、「ていんさぐぬ花」の意味の説明を聞く ・おばあちゃんが歌って聞かせる ・みんなもおばあちゃんと一緒に歌う ・おばあちゃんがピアノで伴奏し、みんなは歌う ・おばあちゃんが小さい頃にやったおゆうぎを見て一緒に踊って楽しむ	・おばあちゃんの家へわらべ歌をうたいに行くことを話す ・静かに聞くように話す ・手拍子をしながら盛り上げる ・みんな一緒に楽しく歌う ・おばあちゃんのピアノ伴奏に合わせて歌う ・みんなと一緒に踊って楽しむ

《考察》

- ・おばあちゃんは以前、小学校教諭を経験した方なので幼児との言葉のやりとりや、ピアノを弾いたりして子供の心を引きつけるのが上手である。そのため幼児は心地良くわらべ歌を歌って楽しむことができた。
- ・地域のおばあちゃんのわらべ歌を聞いて、幼児はお年寄りの方の心の温かさに触れ、親しみを感じていた。



2 実践 2「民話やわらべ歌を楽しむ」

ねらい 民話やわらべ歌のおもしろさを味わい、心を豊かにする。1月7日(火) 晴 10時～11時

幼 児 の 活 動	教 師 の 援 助
・お正月についての話を聞く ・みんなでわらべ歌をうたう 「いい正月やー」、「赤田首里殿内」 ・干支の説明を聞く ・絵本「ね、うし、とら、う」を見る 静かに絵本を見る ・絵本を見た後、感じたことをみんなで話し合う おもしろかった場面について 動物が決まった順番について ・戸外に出て「イッチクタッチク」をして遊ぶ	・お正月についての話をわかりやすく説明する ・沖縄の三線を弾いて情緒を豊かにする ・干支についてわかりやすく説明する ・登場する動物がわかりやすいように変化をつけて読む ・順番を意識させるようにゆっくりと読む ・終わった後の余韻を大切にしながら話をする ・干支ができた理由を気づかせ自分の干支にも関心を持つように話す ・教師も一緒に遊びに参加し、楽しさを味わう

《考察》

- ・沖縄の三線を弾くことにより、温かな雰囲気が出され、心から楽しむ様子が見られた。
- ・民話に登場する動物に対する優しさや気づかいを見せる等、幼児の心情の育ちが見られた。
- ・「イッチクタッチク」の遊びをやる時に、友達同士で鬼を決め、積極的に遊びを進めることができた。

3 検証保育

1月14日（火）晴 9時40分～10時30分

ねらい 民話やわらべ歌に触れ、生活に取り入れることの楽しさを知る。

活動 「鬼ムーチー」の話を聞く。わらべ歌をうたう。

予想される活動の流れ	教師の援助
9:40 ○みんなでわらべ歌をうたう ・赤田首里殿内 ・いっちくたっちく ・まりつきうた 10:00 ○紙芝居「鬼ムーチー」の話を聞く ・楽な姿勢で座って聞く ・喜んで話を聞く ○話を聞いて感じたことを、みんなで話し合う ・思ったことを話す ・人の話を静かに聞く ○ムーチー作りに、期待をする 10:30	○今の生活との違いに気付かせる。 ○みんなと一緒に楽しい雰囲気であう。 ○簡単な振り付けをしながら、伸び伸びとあう。 ○友だちとの関わりを楽しみながら遊ぶことを気付かせる。 ○言葉のおもしろさに気付かせ、楽しんで歌うようにする。 ○歌に合わせてまりつきをし、友だちのまりと交替することを楽しみながらあそぶようにする。 ○まりつきをしている友だちに、手拍子をしながら合わせてあげる。 ○民話「鬼ムーチー」の話をしながら子供の表情や反応を把握する。 ○方言のおもしろさに気付かせるように強調したり変化をつけて話す。 ○イメージを膨らませるように読み方を工夫する。 ○手作りの紙芝居を用意する。 ○幼児一人一人の話を聞き、感動したり、共感したりする。 ○一人一人のつぶやきや、表情を受けとめるよう心掛ける。 ○ムーチー作りに、期待を持たせるように終わる。

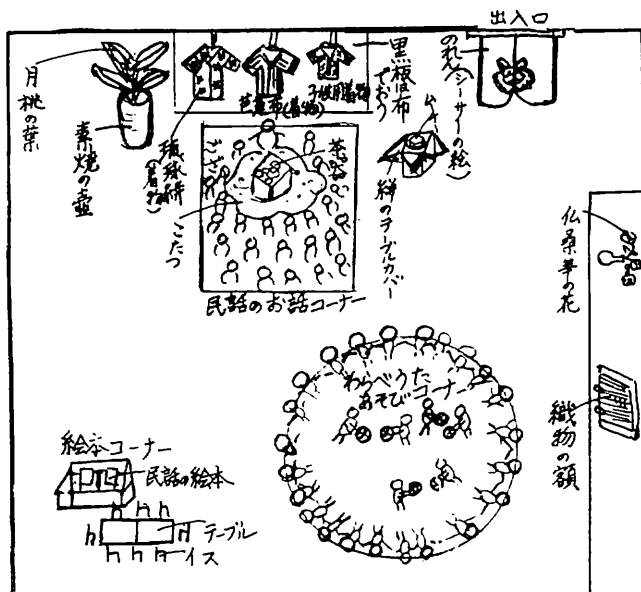


図1 保育室の環境

<考察>

- ・環境の構成によって幼児のイメージを膨らませ、活動の導入がスムーズにできた。
- ・沖縄の方言に興味を示し、紙芝居が終わった後、「アガー」とか「イヤーターヤガ」などと方言を言いながら楽しんでいる姿が見られた。
- ・終わった後の感想を聞くと「鬼は山に追い出されてかわいそう」「子供をさらっていく時、悲しかった」「歯が折れた時、痛そうだった」「鬼も人間と仲良しになったらいいのに」などと鬼に対して同情的な意見が多かった。幼児は「鬼ムーチー」の民話を聞くことによって、さまざまな感動体験を味わい、やさしさや思いやりの心が育ってきたことが会話や顔の表情からも伺えた。

4 幼児の変容について

これまでの保育実践を通して幼児の心の豊かさが培われていく過程を表してみた

時期	活 動	環 境 の 構 成	保育者のかかわり	幼 児 の 姿
10月	・わらべ歌を聞いて「先生どこの歌？」とか、「何の歌？」と質問する。	・方言のおもしろさに気づかせるような雰囲気をつくる。 ・心を安定させるような場づくりをする。	・沖縄の民話やわらべ歌の良さについて保護者へ知らせる ・幼児に時々、方言で話しかけたりする。 ・幼児と教師の触れ合う機会を多くし信頼関係を築く。	1 沖縄の民話やわらべ歌（方言）がわからない。 ・わらべ歌のことばの意味がわからないため上手に歌えない。
11月	・保護者の方から民話を聞く。 「にわとりが化けた」	・沖縄の民話やわらべ歌を準備する。 ・お家の方にも方言を教えるように協力してもらう。	・沖縄の民話やわらべ歌を保育に取り入れる。 ・方言と共通語の違いに気づかせ、方言のおもしろさを味わわせる。	2 方言に気づく ・幼児から方言をたずねりするようになる。 ・お家で聞いた方言を話したがる。
12月	・地域の方（フミおばあちゃん）から、わらべ歌を教わる。 「ちんぬくじゅーしー」 「ていんさぐぬ花」	・地域にある文化に興味や関心を高めるようなものを提示する。（昔の生活で使った道具） ・友達関係を深めていくような環境（認め合い、支え合い、分かち合い）	・沖縄の良さを幼児に気づかせるようにする。 ・幼児の遊んでいる姿をまるごと受けとめ、必要に応じた言葉をかける。	3 方言を知ることによって沖縄の民話やわらべ歌に興味を持つ ・沖縄の民話に興味を持ち、喜んで聞く ・わらべ歌に興味を持ち喜んで歌う
1月上旬	・絵本「ね、うし、とら、う」を見て、干支に興味や関心をもつ。 ・わらべ歌をうたって喜ぶ。	・干支に関心をもたせるように暦や動物の絵を掲示する ・三線を弾いて和やかな雰囲気をつくる。	・民話やわらべ歌が充実して楽しめるように場や時間を保障する。 ・幼児の心情を大切にしながらゆったりとした気持ちでかわかる。	4 沖縄の民話やわらべ歌に興味や関心が高くなる ・わらべ歌が流れてくると喜んで歌ったり身ぶりをしたりする。
1月中旬	・鬼ムーチーの紙芝居を見たり、わらべ歌を歌ったりして遊ぶ。	・沖縄の民具や着物など沖縄らしい環境を設定する。 ・心が温かくなるような雰囲気をつくる。 ・地域の伝統行事に気づかせる。（ムーチーの提示）	・幼児の心情を大切に、適切な援助をする（見守り、励まし、共感など） ・沖縄の民話やわらべ歌を通して教師と幼児が共感する。	5 心の豊かな幼児 ・沖縄の民話やわらべ歌を通して様々な感動体験を味わい優しさや思いやりの心が育つ

5 考 察

10月～11月頃までは、幼児は沖縄の方言を知らないため、沖縄の民話やわらべ歌に対して自分たちの郷土のものとして愛着をもっていなかった。そのことは、教師や父母が沖縄の民話やわらべ歌を幼児に触れさせる機会が少なく、方言が生活の中で使われていないことが原因であると考えられている。このような幼児を沖縄の民話やわらべ歌に親しませるためには、沖縄の方言に気づかせていくことが大切であると考えた。

幼稚園や家庭生活において、方言に親しませるような環境づくりに配慮するようにした。このような環境をつくることによって、幼児は次第に方言に気づき親しむようになってきた。

12月下旬頃に、地域のおばあちゃんからわらべ歌を教えてもらった。そのことによって、お年寄りに対する親しみ、優しさ、敬う心などが育ってきたようである。また地域との連携を図ることによって指導の効果が高まった。おばあちゃんが昔の生活の様子を幼児に語りながら、わらべ歌を教えることは、幼児にとって沖縄の人々の生きてきた状況を知る良い機会であることを知った。

1月頃になると、幼児は沖縄の民話やわらべ歌に対する興味や関心がしだいに高くなり、現代の「かごめかごめ」の遊びに「イチクタッチク」の遊びを取り入れて遊んだり、「まりつき歌」などを歌ってまりつきを楽しんだりしている姿が見られるようになってきた。また、沖縄の民話「鬼ムーチャー」の紙芝居を見た後の感想の中に、「鬼は山に追い出されてかわいそう」「子供をさらっていく時、悲しかった」「歯が折れた時、痛そうだった」「鬼も人間と仲良しになったらいいのに」などと鬼に対する同情的な意見が見られ、このことから幼児の心情の豊かさを捉えることができた。

このような保育実践を通して、沖縄の民話やわらべ歌に幼児が積極的にかかわろうとする意欲を高めるためには、教師の環境の構成が大きな要因となることがわかった。また、やる気をおこすような環境の工夫、教材化の工夫がいかに大切であるかがわかった。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成 果

- (1) 幼児は沖縄の民話やわらべ歌に触れることにより、沖縄の文化に興味や関心を持つようになってきた。
- (2) 幼児は沖縄の民話やわらべ歌に親しむことにより、教師や友達との心の触れ合いを深めることができた。そのことによって、人に対するやさしさや思いやり、人の気持ちを大切にすることが育ってきた。
- (3) 沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画を立案したことによって、今後は保育の見通しを持って指導し、保育効果を高めることができる。
- (4) 地域の人材を活用したことによって、地域の良さを保育に取り入れ交流を深めることができた。

2 今後の課題

- (1) 年間指導計画に準じて地域の民話やわらべ歌を教材化し、実践を深めていきたい。
- (2) 家庭や地域との連携をとりながら、日常生活の中で民話やわらべ歌に親しませるような環境をつくっていくよう輪を広げたい。

<主な参考文献>

文部省	『幼稚園教育指導書』	フレーベル館	1989年
森上史朗他	『幼稚園教育要領解説』	〃	1990年
遠藤庄治他	『沖縄の民話百選』	沖縄県生活福祉部	1996年
遠藤庄治	『沖縄の民話』	琉銀国際化振興財団	1996年
高江洲義寛	『沖縄のわらべ歌』	沖縄文化社	1994年
高江洲義寛	『沖縄のわらべうたの世界』	青い海出版社	1979年
岸井勇雄他	『感性と表現』	チャイルド社	1990年
大石勝男	『豊かな心を育てる』	東洋館出版社	1993年